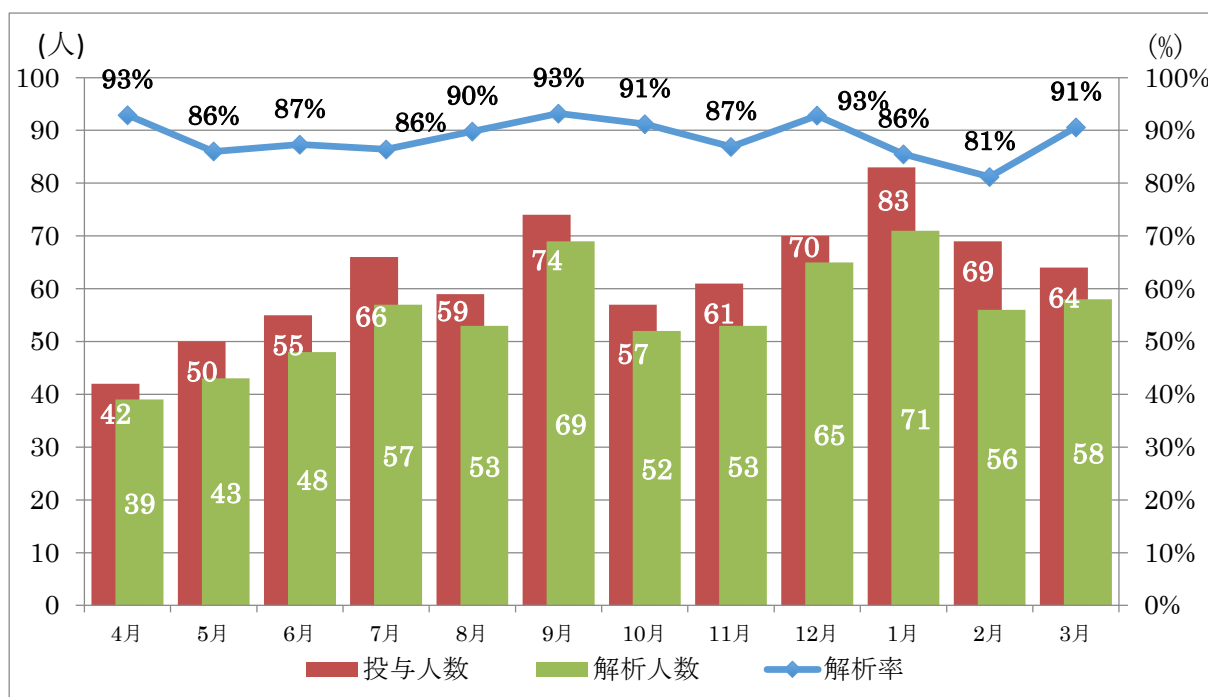


1 9 . VCM ・ TEIC 2 剤血中濃度測定解析率



抗 MRSA 薬であるバンコマイシン、テイコプラニンの 2 剤について血中濃度測定を実施し、TDM 解析率を示したグラフである。投与期間が 3 日以内の患者は除外している。血中濃度測定は、有効血中濃度と中毒域の幅が狭く、重篤な副作用のある薬剤に対して実施されている。副作用防止のために血中濃度測定を行うことで、抗 MRSA 薬の有効性と安全性を評価する事が可能である。また特定薬剤治療管理料の算定も可能であり、本来であれば 100%の実施率が望まれるところであるが、抗菌薬適正使用支援チーム及び薬剤部が積極的な指導を行い 2020 年度の実施率は 85~90%以上だった。適切な抗菌薬の投与により、患者の予後は向上し、耐性菌の発生も抑えられるため、更なる TDM 遵守率の上昇が望まれる。

2015 年 5 月の世界保健総会で、薬剤耐性 (AMR) に関するグローバル・アクション・プランが採択され、日本は 2016 年 4 月に薬剤耐性に関する国家行動計画が策定された。これを受けて当院は、2018 年 4 月に感染症科と感染対策室で抗菌薬適正使用支援チームを作り、抗菌薬適正使用に関する包括的な取組について議論するとともに、各診療科との調整を図り改善できるよう計画、推進していく。

データ提供：医療の質・安全対策部 感染対策室